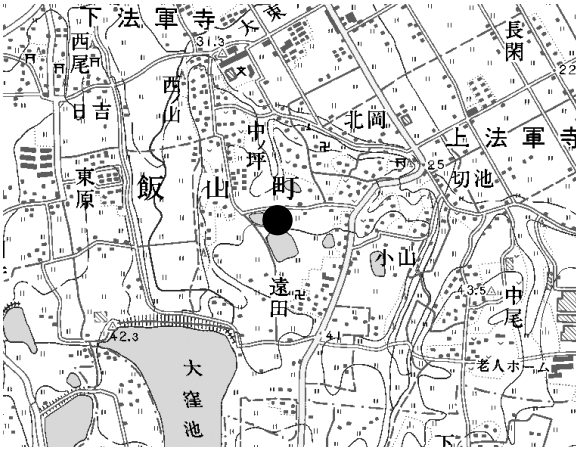
岡遠田遺跡（おかとおだ）

岡遠田遺跡は丸亀市飯山町上法軍寺に位置する。遺跡は岡田台地の中央北側に立地し、南北約 450 mの範囲に広がる。本遺跡の付近では弥生時代～室町時代の集落跡である東原遺跡や遠田遺跡、また古墳時代後期の竪穴建物跡などが検出された大窪谷遺跡などがある。



第 11 図　遺跡位置図（1/25,000）

本遺跡の発掘調査は国道 438 号（飯山工区）建設に伴い、令和 2 年度から実施している。調査区は調査工程や進入路の都合などで 16 区に分け、今年度は 7 区～ 16 区について発掘調査を実施した。

今年度の調査の結果、弥生時代後期、古墳時代後期、鎌倉時代～室町時代の集落跡を検出した。弥生時代後期の集落跡は遺跡の北側から中央部にかけて広がる。竪穴建物跡約 10 棟（建て替えを含む）、掘立柱建物跡、多量の弥生土器が廃棄された土坑などが見つかっている。

弥生時代の竪穴建物のうち、11 区 SH11001 ではガラス玉が 10 点出土した。この建物跡は平面形が円形であり、大きさは約 7.5m を測る。床面には主柱穴跡 7 基が円形にめぐる。中央には炉跡があり、埋土下位には多量の焼土・炭を含んでいた。また、壁溝やベッド状遺構などを確認した。

出土遺物はガラス玉の他、弥生土器片、サヌカイト製の石鏃・チップがある。ガラス玉は小玉 9 点と管玉 1 点であり、いずれも床面付近で出土した。色調は薄緑色がかったライトブルーと鮮やかなコバルトブルーがある。

ガラス玉は本遺跡では 11 区 SH11001 を除くと数点しか出土していない。また、県内の弥生時代の集落跡でガラス玉が出土した遺跡は 10 余りあるが、これらでも各遺跡で数点に留まる。このため、11 区 SH11001 のガラス玉は県内の弥生時代集落ではまとまって出土した事例と言える。

一方で善通寺市旧練兵場遺跡では弥生時代のガラス玉が約 300 点出土している。本遺跡では当該期に属する多数の竪穴建物跡や遠隔地からもたらされた土器・石器・青銅製品（青銅鏡・銅鏃）などが数多く見つかっており、大規模な交易拠点であったとされる。こうした旧練兵場遺跡の状況を考えると、岡遠田遺跡のガラス玉についても交易品として持ち込まれた可能性がある。

古墳時代後期の集落跡は遺跡の北側に広がり、竪穴建物跡 2 棟（7 区 SH7007、SH7020）、柱穴跡、溝状遺構などを検出した。2 棟の竪穴建物跡はそれぞれ建て替えられており、平面形は方形、大きさは約 4 ～ 5 mを測る。また、どちらも建物跡の南辺部中央にカマドを伴っていた可能性がある。ただ、後出する別遺構に切られて破損が著しく、カマドの壁体や煙道などが明瞭に確認できなかったため、詳細は明らかでない。出土遺物には土師器甕などがある。

鎌倉時代～室町時代の集落跡は遺跡の北側と中央部南寄りで展開する。中央部南寄りで集落跡を確認した場所は後世の耕地造成により地形が大きく改変されている。このため、集落跡の本来の姿は失われているものの、南側にある谷地形に向かって緩やかに下る斜面に位置する。検出遺構には掘立柱建物跡

を構成したと見られる柱穴跡の他、溝状遺構、土坑などがある。これらは小高い位置に柱穴跡が、谷地形に近い低位部に土坑や溝状遺構が偏る傾向がある。このため微高地上に建物群が位置し、低位部に土坑群などが分布したと考えられる。

まとめ

今年度の調査では、弥生時代後期から室町時代にかけての集落跡を確認した。

弥生時代後期の集落跡では竪穴建物跡を中心とする遺構を検出した。竪穴建物跡は昨年度の調査分を含めると、約 20 棟を数える（建て替えを含む）。また、これらの存続期間は概ね弥生時代後期中頃に限定されることが明らかになってきた。

写真 18　13 区遠景
写真中央が SH13000（東から）

写真 19　15 区 SK40 土器出土状況（南から）

写真 20　11 区 SH11001 完掘状況（南から）

写真 21　7 区全景
写真中央が SH7007、左上が SH7020（北から）

写真 22　16 区全景（北から）

写真 23　16 区 SD65 土師質土器杯出土状況
（北から）